

2026年2月1日 実施

川崎医科大学

一般 化学



1

- (1) ア. ③ (2) イ. ②⑥ (3) ウ. ①③ (4) エ. ⑤  
(5) オカ. 63 (6) キ. ③④ (7) ク. ②

2

- (1) ア : イ = 2 : 1 (2) ウエオカ. -278 (3) キ. ⑥ (4) ク. ⑤  
(5) 1) ケ. ⑤ 2) コサシス. 1003 セソタチ. 5412  
(6) ツ. ③ テ. ①④

3

- (1) ア. ①④ (2) イ. ②④ (3) ウ. 2 (4) エ. ①  
(5) 1) オ. ⑤ 2) カ. ② キ. ① ク. ③ 3) ケ. ④  
(6) コ. ④

**【講評】**

大問1の濃度の計算は、自分で適当な体積を置いて考えると簡単に計算できます。気体のグラフの問題では、モル比=圧力比がうまく使えれば簡単に解けたと思います。

大問2は昨年度もイオン結晶が出題されましたが今年度もイオン結晶で、組成式が分かれば簡単に答えられる問題だったので昨年度より解きやすかったと思います。

大問3のアミロペクチンの枝分かれは、一度解いたことがあれば分子量も構造も書いてくれてあったので合わせたい問題でした。最後のエステルの構造も、不斉炭素原子と、生成した物質の分子量からカルボキシ基が二つあることが分かれば合うはずです。

昨年度と比べて問題数もほとんど変わらず、難易度的にも変化はないかと思います。ミスをする  
と差がついてしまうので、いかに正確に答えていくかが重要になると思います。

全体的には正誤などでミスがあったとしても75%は取っておかないと一次合格は厳しいと思います。最終合格なら8割以上は欲しいところです。